

3. [その他の課題について]

大東町会場（久野交流センター）

Q 9：地域自主組織の支援というところについて、自分は自治会に10年前から出ているが仕事が多い。確実に10年前より仕事が増えたように思う。今後人口が少なくなり、高齢化が進み、仕事をやれる人が確実に少なくなっているがどうお考えか。また、木質バイオマスについて、チップボイラーということだが、ペレットだともう少し利用範囲も広いと思う。灯油に代わるくらいの発熱量がある。例えばペレットストーブの補助金を作るなどの考えはあるか。

A：いろいろな役があつて、減らすことができないかということだが、実態は石原さんのおっしゃるとおりと思う。地域で高齢化が進んで若い方が減って、自治会のまとまりが維持できないという状況があると思う。だからこそ、自治会単位ではなく、拠点である公民館単位、今まで公民館長さん・主事さんがおられて生涯学習の拠点として一生懸命やってきた。公民館の実態は生涯学習だけでなく、地域づくり、福祉の拠点の役割を果たしてきた。しかしそうした、自治会の実態として業務がもっと増えるのであれば、自治会単位ではなく公民館単位を中心とした複数の自治会が力を合わせて、この地域全体の問題を解決していこうという発想からできたものが地域自主組織であり、地域自主組織がみんなで交流センターを拠点に地域をよくしよう、交流の場を作って活用しようというのが交流センターということになった。地域自主組織が時間の経過とともに力をつけて行かれることによって、一つひとつの自治会ではできなかったことを、交流センターを拠点にみんなで広域的にやっていこうということによって動かしていることをご理解いただきたい。

それから、ペレットの方が燃料の管理がしやすいということはあるが高つく。ペレットを供給しておられる企業があり、大きな集成材を作っておられるが、全部材料はヨーロッパから仕入れられて、そこで破材くずが多く出たので、捨てておられたのを、ペレットを作り自社内で活用しておられたが、それはもったいないと、最初はただで、今は有料でやって、結構高く買っておられる。それを今、行政でやろうとすると、ペレットを作る機械が必要、ペレットを燃料にするボイラーも高くなるということで、とりかかりとしてチップにして燃やすボイラーを最初は公共施設にセットしていく。もっと小型のボイラーで、安い、家庭でもハウスでも使えるチップボイラーを開発して使っていただきたいという考えなのでご理解いただきたい。（市長）

Q 10：下区自治会は39の役職がある。10年前より増えている。どう考えても多いと思う。自治会は40人もいない。39も役職があつて、当然市役所からの連絡のための役職もある。そのあたりもう少し整理してもらわないといけない。また、島根大学との連携でそういうところに力を入れてもらえないか。自治会もこれから高齢化していく。このあたり改革してもらわないとこれから生活していくのが難しいと思う。木質バイオマス、ペレットのことよくわかった。なるべくエネルギーも地産地消するべきと思つて一言言わせてもらった。

A：役職の数、自治会内で状況を皆さんで話し合われてはどうか。その自治会単独の問題かどうか、他自治会の皆さんとも話し合われて、地域自主組織の中で話し合ってみていただくとか検討される余地は十分あると思う。いろいろ遠慮なく総合センターあるいは市役所に問い合わせいただき、問題点を確認しあつて前に向かって進んでいかなければいけないと思う。木質バイオマスは地産地消を進めていく上で有効である。もともと木質バイオマスの話は里山を再生しようということで3つの目的があつて、食糧・エネルギー供給機能を取り戻そうということ、そういう活動を地域自主組織が中心になってやっていこうということである。エネルギーの活用についてもそうした視点から取り組んでいきたいということなのでよろしく願いたい。（市長）

Q 11：水道について、下久野までは水道があるが、上久野はない。数年後に工事が始まるという話も聞いたが、具体的に何年頃からやるのか教えていただきたい。また、担当部局の方に説明会に来てもらいたい。それから、小学校閉校に向け準備委員会を立ち上げた。具体的には盆すぎに動き始めると思うので、その時にはご協力をお願いしたい。

A：上久野の水道事業の今後だが、スケジュールとしては、平成28年度から工事開始し、4年かけてやりたい。来年頃から現地調査、27年度実施設計、そうすると延長・事業費が出てくると思う。具体的な考えとしては、進めていくには地元の方と水道局との連携をスムーズにすることが必要なため、協議会等を立ち上げていただいてやって行きたい。(水道局長)

A：直接的に閉校行事は市からお金の面でのご支援という点では、1校あたり30万円となっている。その他の閉校行事に対して、財政的なこと以外では様々な面での支援はできると思う。すでに学校と教育委員会で3月の閉校に向かって詳細を調整中であるので、その中で市でできる部分は市でやって行き、地域の皆さんも含めて今後協議して行きたい。(教育部長)

Q12：本年度、久野小学校のPTA会長をしている。2人娘がいて、上は来年から大東中学校、下は統合後大東小学校に行くことになる。小さい学校から大きな学校に入ることに不安を感じている。いじめ早期発見対応マニュアルについて説明して欲しい。

A：会長さんにはPTA活動について、日ごろご尽力いただいている。とりわけ閉校行事について、今後ともよろしくお願ひしたい。いじめ問題は非常にクローズアップされていて、一昨年11月より、いじめ問題について学校の校長先生と協議し具体的な対応の仕方、教育委員会の支援について話した中で、家庭・地域の共通理解を持っていじめを許さない、出さない、見逃さない、そして子どもたちもいじめをしない、許さない、犯してはいけない、こうしたことで、今年度は市全体でいじめ防止に取り組もうと言うことで、市民運動にして行きたい。いずれにしても一番見えにくい部分だが、学校が日頃より子どもたちの様子に気づいて行くための、それぞれチェックリストを作っている。事案によっては学校で組織を立ち上げ、また教育委員会と一緒に組織として、いじめた子、いじめられた子の対応をして行くということ、各学校と教育委員会で取り組んでいこうと考えている。(教育長)

Q13：県道安来木次線はとても良い道になって利用している。感謝している。一方大仁農道は、去年の土砂災害で抜けてしばらく通行止めとなっていたが、その間看板の面でわからなかったという方があった。仁多から来られた人が全くわからなくて、ぎりぎりまで来て引き返された方もたくさんおられたと聞いている。今後ああいうことがあれば、わかるようにいい具合に看板等を設置していただきたい。農道ができて30年くらいたち、沿線の木が大きくなって、近年雪が降ると木が折れたり、竹がしなったりして道をふさいでいることが多いので、対策を取っていただきたい。道の真ん中に松の木が倒れたりしていることもたびたびある。自分は大仁農道を通らないと帰れないので、車にチェーンソーと刈払機を積んで持って歩いている。たまたま人が通らなくてよかったけれど、道路が直って交通量が増えているので、大きな松の木は私の手ではとてもやれないし、大型バスなどは当たるのではないかと思うので、管理をお願いしたい。事業管理課にも何回か電話連絡をしたけれど、また見に行くからということだったが、よろしくお願ひしたい。

A：大仁農道には総合センターで通行止め看板を設置した。久野交流センターまで来られないとわからなかったという苦情は何回か受けている。表示についてもわかりにくかったと思う。これについては、今後は注意して、ドライバーの方にわかりやすい看板を設置したいと考えている。沿線の木が大きくなって危ないということ、通報を受けて見に行った。十分でないかも知れないが、最小限度で、道路から路肩に寄せるなどの作業は行っている。最近、大掛かりな伐採をしていなくて、5月に地元をよく知っておられる方と点検し、普段以上のことはしたと思う。しかし、まだ危ない木が道路の法面の方にあることは認識している。再度点検して、危ないものは対処したいと思う。(大東総合センター事業管理課長)

A：現地踏査の上、必要な対策を取っている。最近、市では高所作業車を総合センターへ配置している。センターへご一報いただき、必要に応じてこれを使いながら対応していきたい。また、沿線の木や竹は民地のものもあり、切る時にはご協力得なければ作業もできないので、よろしくお願ひしたい。(建設部長)

Q14：今年のはじめに「よくわかる予算書」を見た。除雪費が1億5500万円計上してあった。市の予算300億円くらいのうちの金額なので、大きい額と感じている。県道・市道両方あるが、2～3年前に市道で救急車が上がらなくて対応が遅れたことがあったので、市道の除雪対応をすみやかにお願いしたい。

A：除雪については、職員も朝早く出て、雪の量を測定していただく方に電話をして量の報告をいただき、必要な路線を業者の方へ指示を出している。業者も最大動員で通常業務を置いておいて、除雪の方を最優先として対応してもらっている。雪の量が多いと想定される時は前日から行ってくださいとお願いすることもある。能力に限界があるのでご不便かけているところもあるが、業者と一緒に頑張って極力早く対応したい。(大東総合センター事業管理課長)

Q15：松井院長さんに病院・医療面に関わることを伺いたい。あと久野地区で最も急々なことは閉校に関わることで、実行委員会を立ち上げて検討している。あと問題は統合にかかる児童・保護者さんの不安をできるだけぬぐいさっていただくようお願いしたい。それに係る問題点や希望も述べさせていただくのでよろしくお願いしたい。課題の跡地利用は3年のうちにということだが、活力を失って寂しく思っている。これから跡地利用について、にぎやかな、また活力が見出されるよう久野地区で考えていかねばならないが、いずれにしても行政と一体となって進めていかねばならないと思うのでよろしくお願いしたい。

A：医師不足の状況は残念ながらまだ解消されていない。平成15年に34人いた医師が現在18人の状況。しかし18人で34人と同じくらいの入院患者を診ている。だから、経営的には収支均衡かプラスの状況だが、経営は厳しい状況は変わらない。では先の見通しはどうなっているかだが、国の政策もあるが、県では県と島根大学とで地域医療支援センターができて、地域枠推薦の学生たちを地域に派遣して行こうという施策が始まろうとしており、大いに期待している。まだ概要が見えていないが、それが頼りだと考えている。病院建設については今年度に基本設計、来年度から実施設計に入る。規模的には今の病院と同規模と考えている。見た目も立派な、夢のある病院ができるんじゃないかと思っている。(病院事業管理者)

A：大東町出身の上代タノ先生も言われている、故郷を愛す、国を愛す、世界を愛すという言葉で、私どもは一番に「故郷を愛す」、そういう子どもたちを育てたい。統合後も久野地区を愛する子どもたちを育てていきたい。子どもたち、保護者の皆さんが、大東小学校に行ってもうまくやっていけるかどうか、先生方もそこを一番に考えていて、年間で数回の大東小学校との交流事業も現に進めていただいている。学習の面でも今後とも学校と協力しながら支援をしていきたい。跡地については活力が見出せる跡地利用になるよう、支援して行きたい。(教育長)